

★今週の聖句

「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。」
ルカによる福音書 14:13

★ねらい

・この物語は、ルカ福音書だけにある物語である。ルカの強い意志がここにある。医者であるルカは常に弱者に目を向けていた。そして、ルカはイエスの眼差しの先を見る。イエスの眼差しは「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。」とあるように弱者に向けられていたのである。

次に注目してほしいのは、イエスの話しが語られた相手は、当時、社会的に強者のパリサイ派の幹部だったということである。私たち自身に話されているのである。

★説教作成のヒント

- ・社会の大きな変化の中で、貧富の差が生じ、「こどもの貧困」が課題となっている。しかし、イエスは、常に弱者へのまなざしを向けていることに注目したい。
- ・イエスの眼差しを受けて、イエスと共に生きる私たちもまた弱者への眼差しをわすれないことである。私たちはできることはある。
- ・「そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。14」とあるのは、私たちは人から報いを受けるのではなく、神から報いをいただくのだということである。

★説教

教会の礼拝に、めぐちゃんという知的障がいをもった子がいました。ときどき奇声を発するので、正直、困っていました。

めぐちゃんのご両親は熱心なクリスチャンでした。ですから、礼拝を休むことがありませんでした。そして、毎週、聖餐式があり、「平和の挨拶」をします。そのとき、「平和がありますように」と挨拶し、握手をします。めぐみちゃんは握手が大好きです。「握手」と言って、誰にも手を出すのです。すると、握手をしたみんなは明るくなるのです。みんなでイエスさまを中心として聖餐を受けます。そう、みんなです。

めぐちゃんは弱い子どもですが、名前のようにめぐみを私たちにくれました。イエスさまは「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。」と言われます。これは恵みの招きなのです。

★分級への展開

さんびしよ

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□51番

□123番（改訂版）

やってみよう

- ・世界中には、貧しい人がたくさんいます。

貧しく弱い立場に置かれた人々への保健医療活動を行っている JOCS（日本キリスト教海外医療協会）に使用済み切手を送みましょう。すでに、使用済み切手を集めている教会もあるかもしれませんが、子ども達で箱を作って、教会のみなさんに呼びかけをして集めてみましょう。

使用済み切手の送り先

お願い： 使用済み切手などのご寄附は、送付にかかる送料を各自のご負担でお願いしております。

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 1-1 早稲田 SIA ビル 4 階

JOCS 東京事務局切手部 TEL 03-3208-2418

使用済み切手運動は、皆様の会費や募金と合わせて、海外協力で活用されます

活動を支える：使用済み切手運動

日本キリスト教海外医療協会（JOCS）では、1964 年から使用済み切手を集めて、海外医療協役に役立ててまいりました。この間、200 万件以上にもおおよぶ使用済み切手のご協力により総計 100 億枚以上の切手が寄せられ多くの医療従事者をアジアの地に送ることが出来ました。全国から寄せられる使用済み切手や、募金によって、JOCS の活動とワーカーの働きが支えられています。よろしく願いいたします！！



切手を切り取る時、送り方などの大事な注意点

1. 切手の種類は問いません。普通の 80 円切手などでも何でも OK です。
2. 切手のまわりは大体 5mm から 1cm はなして切り取ってください。
(切手のまわりのぎざぎざが欠けなければ大丈夫です)
切手のまわり 5mm というのは、切手を破損しないで、なおかつ紙の部分を小さく・・・という意味です。
3. 切手を切り取る際、切手の目打ち（ぎざぎざ）を切り取らないようにしてください。

(切り過ぎて目打ちが切れていなければ大丈夫です)

*一枚だけ貼った切手は一枚ずつに切る。*何枚かまとめて貼った切手はまとめて切る



話してみよう

- ・神さまは、偉い人、勉強のできる人、運動ができる人、かっこいい人、お金持ちの人を特に愛されると思いますか？
- ・神さまは、みんなの事を分け隔てなく愛されています。何もできなくてもどこに住んでいても、1 人 1 人がとても大切な存在なのです。
- ・周りにひとりぼっちでさびしい思いをしている人はいませんか？困っている人はいませんか？体の不自由な人はいませんか？また、自分がひとりぼっちだと感じたことはないですか？
- ・イエス様は、神さまの子なのに一番身分の低い者となり私たちに仕えてくださいました。イエス様なら弱い人に対して、どうされるでしょう。

★ 今週の聖句

「自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。」
ルカによる福音書 14:27

★ ねらい

・イエスの弟子となることはどういうことであるかということである。「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。」とあるように厳しいお言葉である。「憎む」ということは、「より少なく愛する」という意味である。自分にとって大切であるものは「より少なく愛する」ものでしかない。

・十字架は、自分の大切にしている思い、欲望をささげ、苦しみに耐えることである。
・「自分の十字架を背負って」と言われたイエスも神の子であるあることを固守することなく、十字架の死に至るまで従順であられた方であるということをお忘れはいけない。

★ 説教作成のヒント

・自己欲を限りなく満たしていく社会の中にあって、私たちの歩み方が示されている。これを「憎む」ことであるという。凄い挑戦を受けることになる。弟子となるということは厳しいことであるが、ここに十字架の真理があることを考えさせたい。

★ 説教

めぐちゃんのお母さんは、めぐちゃんが生まれたとき、お医者さんからあかちゃんに「知的な障がいがあること」と知らされました。お母さんは、悲しくて、苦しく、どうしたらよいか分かりませんでした。なぜ、私のこどもが障がいをもっているのか受け入れることがなかなか出来ませんでした。

牧師さまは、赤ちゃんに「めぐみ」と名を付けました。でも、お母さんはどうしてもこのことがめぐみに感じる事が出来ませんでした。

普通の楽しい子どもとの日々を捨てなければなりません。病弱だし、手のかかることばかりでした。お母さんにとって、「十字架」でした。

でも、イエスが言われたように「十字架を背負った」のです。めぐちゃんと一緒に生きると、そうすると障がいがある子の将来が心配になりました。働くところを作らなければ思うようになって、障がいのある子の働き場をいくつも作っていきました。そう、めぐちゃんだけでなく他の障がいのある子にも働く場を提供できました。十字架を負う者はイエスさまも負ってくださり、大きな働きを出来るようにして下さいます。

「自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。」
めぐちゃんのお母さんは、イエスさまの弟子になったのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

31番

119番（改訂版）

やってみよう

<やってみよう>

- 1、自分の大切なものを紙に書いて、紙ヒコーキを織る。
- 2、紙ヒコーキが入るくらいの空箱や空筒を的にして、ヒコーキを飛ばして入れる。意外と難しいです。空箱にイエス様の描いて貼ると良いですね。
- 3、紙ヒコーキは、自分の大切なもの。空箱の的はイエス様。大切なものを投げ捨てて、イエス様もあたたかいふところに飛び込みましょう。
- 4、みごと入ったら、先生と「おめでとう」言ってムギューっとハグしましょう。

話してみよう

- ・大切なもの（宝物）は何ですか？
- ・では、その大切なものはもともと誰のものか考えてみましょう。
- ・大切な何かを捨てるとはどういうことでしょうか？捨てる場所は、イエス様の十字架の下（足元）だと考えてみてください。
- ・すべてを捨てて、イエス様の胸に飛び込んでみたら、どんな気持ちかな？

★ 今週の聖句

「『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください。』と言うであろう。」

ルカによる福音書 14:27

★ ねらい

・ここでも注目したいのは、この話が誰にかたられたかということである。「ファリサイ派の人々や律法学者たちは」とあるようにファリサイ派の人と律法学者に語られています。彼らは当時のユダヤ社会を理念と実践で支えた人々である。ここでいう99匹の羊かもしれない。一方、「徴税人や罪人」という登場者がいる。彼らは律法学者、ファリサイ派の人からユダヤ律法社会から社会の外にいるべき人として決められた罪人である。1匹の羊かもしれない。このファリサイ派、律法学者にとって、社会の外にいる少数者にイエスは目を留められた。

・社会の外にいる一匹がイエスに、神に心を向けたとき、すなわち悔い改めたなら、それは神にとって大いなる喜びであると宣言する。「言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」と。

★ 説教作成のヒント

・ここで強調すべきは、「見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください」という言葉にあるように「喜び」である。失われた者に対する神の愛が注がれ、それはイエスによって、失われた罪人が回復する喜びが私たちの内にあることを心にとめたい。

・「徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。」とある。「皆」という言葉に注目したい。イエスの交わりは、社会において交わりを断たれている人々が「皆」、喜び集うところである。教会の有様ではないだろうか。

★ 説教

私たちは、在日韓国人の多い教会の方々と一緒にイエスさまと礼拝をしたことがあります。みなさんは、知っていてほしいのです。日本社会の外に出され、重い、苦しい差別を私たち日本社会から受け、経済的にも貧しさに堪えなければならなかった人達がいたということ。在日朝鮮人の人たちです。みながいろいろと苦勞をしていました。でも、社会の外にて苦しんでいる人をイエスさまは見捨てませんでした。

Sおばあちゃんは、数十キロの道を歩いて、イエスさまのお話を聞くために教会に行っていたそうです。なぜ、イエスさまだけが、おばあちゃんの苦しみ知ってくださっているとSおばあちゃんは知っていたんでしょうね。「徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。」と言うようにね。

sおばあちゃんのために教会が出来ました。「言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」とあるように「大きな喜び」が神さまから与えられたのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

108番

55番（改訂版）

やってみよう

1) 羊のぬいぐるみを用意し、部屋のどこかに隠す。
みんなで探す。

2) 机の上で。

模造紙など、机の大きさに合う紙に山や森の絵を描き、（アドベントカレンダーのような）閉じてある窓を作る。

その中の一つに紙に描いた羊を隠し、皆で探す。

話してみよう

※イエス様のおっしゃる「まいごのひつじ」とはだれのことでしょうか。

★ 今週の聖句

「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。」	ルカによる福音書 16:10
--	----------------

★ ねらい

・この箇所は二部に分かれている。「不正な管理人のたとえ」(1-9)と「富に対する姿勢」(10-13)である。これを一つの物語としてまとめて、解釈していくことは難しい。だから、分けて解釈しても良いのではないだろうか。

・「不正な管理のたとえ」の話は、主人の財産を浪費し、それがばれそうになるとさらに証文を書きなさせるといふ二重の主人に対し不正をするのだが、危機に直面してなりふりかまわず生きのびる道を賢くさぐったという管理の利口さを褒めていると思えるが、むしろ、「そこで、わたしは言っておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。」ということに主旨があるのではないだろうか。

・後半は、前半の富に対する忠実と相いれないように神への忠実さを言っているように思える。神への忠実とは、富への自由へと向かい、神と同列に富を扱うのではなく、神に従うから富をも支配することになる。

・つまり、富の使い方である。

★ 説教作成のヒント

・強調すべきは、富の使い方である。経済の営みの中で、富が常にある。これを、不正の富でも、友を助けということでは良いものとされる。富が自分だけに使われるのではなく、友のために使われるとき、それは「ごく小さな事(富)に忠実な者は、大きな事(神)にも忠実である。」ということにつながるのである。

★ 説教

私たちは、お金がなくては困ってしまいますね。でも、イエスさまは、「あなたがたは、神と富とに仕えることが出来ない。」言われるのです。困りましたね。富がなければ人を助けることできませんよね。そこなのです。富をもつことをイエスさまはだめだといっているのではないのだと思うんです。どう富を用いるかということが大切だということです。富をどう用いるかということは、神さまにとって小さなことかもしれませんが、この小さなことを忠実に用いることが、大きなこと、神さまに忠実になることであるということです。

では、小さなこと、富に忠実であるということは、どんなことかということ。富を自分のためにためていないで、友の助けるために一生懸命、考えて実行することなのだ。それは、私たちのために命さえ投げ出して、十字架にかかり、私たちを神さまの友だちとしてくださったイエスさまの御心とつながるのだね。富を自分を守るだけに貯めていくのではなく、友達を助けるためにささげること一生懸命であろうね。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

49番

47番（改訂版）

やってみよう

画用紙に色々な色のクレヨンを使い少しずつの範囲を塗りこめていく。

その上を黒のクレヨンで塗りつぶす。

最後にくぎや鉛筆やお箸など先がとがっているもので、黒い部分を削り絵を描いていく。

→できれば見本に荒い作業で完成したものを作っておき、比べてみてもおもしろい。

→色も黒も、きちんと塗りつぶさないときれいな作品にならない。

話してみよう

※みんなが大切にしているものは何ですか。

※イエス様がおっしゃる「本当に価値のあるもの」とは何でしょうか。

★今週の聖句

「やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。」	ルカによる福音書 16:22
---	----------------

★ ねらい

- ・ 山上の垂訓、ルカは平地の垂訓と呼ばれる一節を思いだそう。マタイ福音書では、「心の貧しい人々は幸いである」とあるのに対して「貧しい人は幸いである」とあるとし、端的に「貧しい」ことが祝福されることであると言っている。（マタイの場合は共同訳聖書の訳、「神により頼む者は幸いである」というように、精神化している。）さらに、マタイにない「しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、あなたがたはもう慰めを受けている」と富に対する厳しい言葉がある。
- ・ ルカの特徴を考えてみよう。ルカは預言者の伝統である「苦しんでいた人々は再び主にあって喜び祝い、貧しい人々はイスラエルの聖なるお方ゆえに喜び踊る。」（イザヤ29:19）という「貧しき者への福音」という預言を引き継ぎ、強調しているのが特徴である。
- ・ 「貧しき者への福音」という中での「金持ちとラザロの物語」が語られているのである。

★ 説教作成のヒント

- ・ 平地の垂訓「貧しい人は幸いである、神の国（マタイでは天の国）はあなたがたのものである」とあるように、ラザロはみ言葉の証言と語られ、「しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、あなたがたはもう慰めを受けている」とあるように金持ちは語られている。現代は世界が富むことを幸いとする時代の大きな流れにあるとき、富むことにはたして幸いであるのかを問い、ではどう生きるのかということ語ることである。そのヒントは「アブラハム言った『もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら』・・・」とあるように「モーセと預言者」つまり聖書の言葉に耳を傾けることである。

★ 説教

お金持ちは良いよねと先生も思っている。でも、イエスさまは、「お金持ちと貧しいラザロの物語」の中で、天の国では、貧しいラザロの方が祝福されると言っているんだね僕たちは今、生きているこの世界だけが世界だと思っているが、イエスさまと生きるということは、この世界だけでなく、天の世界があって、天の世界を目指して今を生きているんだね。どんなにお金持ちになっても、お金では天の国に入ることは難しんだ。イエスさまは、お金持ちが天国に入るには、らくだが針の穴を通るように難しいとも言っているのだね。

じゃあ、どうすればいいのだろうかね。「モーセと預言者」つまり聖書の言葉に耳を傾けなさいという言葉が今日の話しの結びだ。そうなんだよ。なによりも良い者は、神さまの言葉なのだ。神さまの言葉をたくさん持つことが、豊かだということなのだよ。このことを忘れずにこれからも神さまの言葉に耳をすまして、一緒に聞いていこうね。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

49番

47番（改訂版）

やってみよう

下の絵の①と②の違っている箇所を探しましょう。

5つあります。



話してみよう

イエス様は私たちを天国に招いてくださっていますが、このお金持ちと私たちの違いはなんでしょうか。